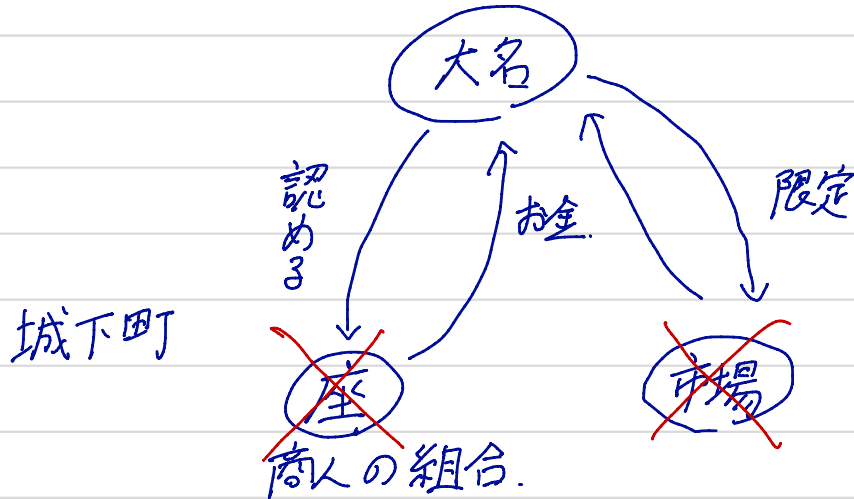
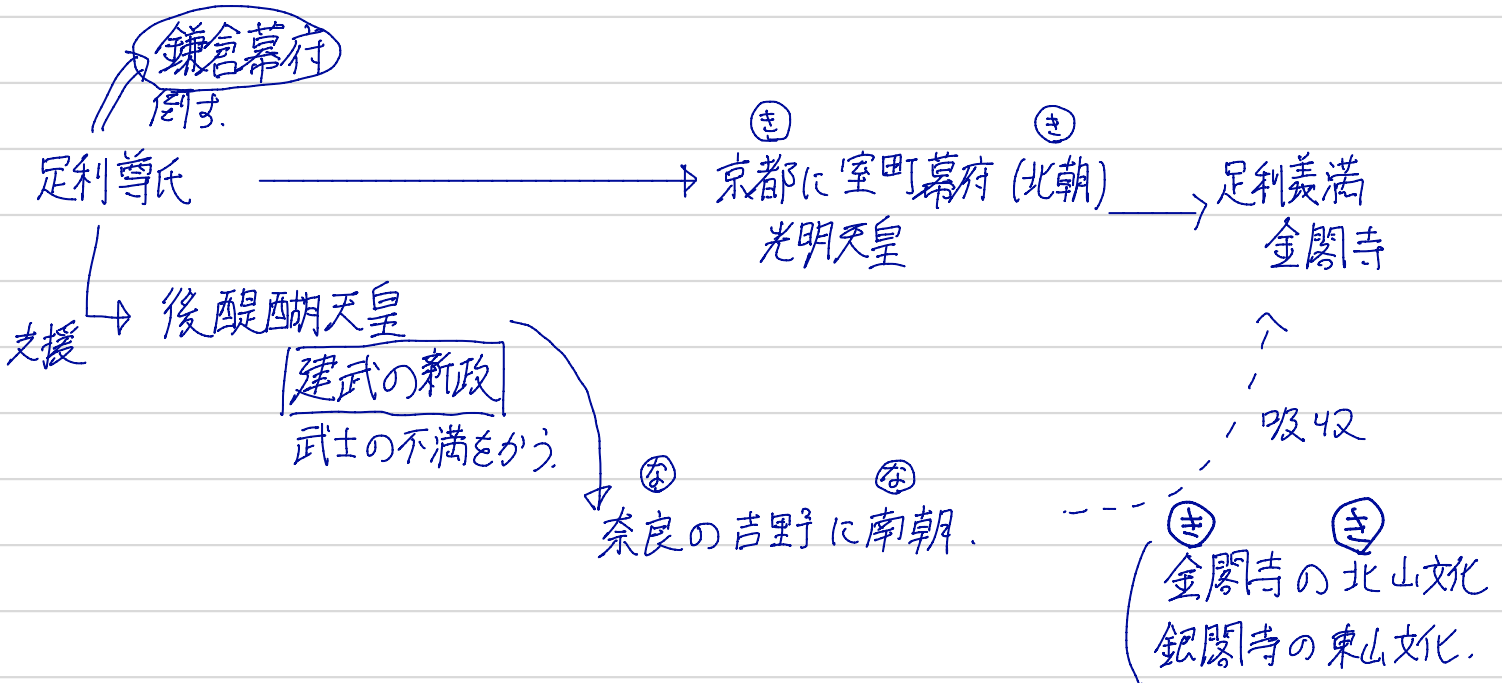


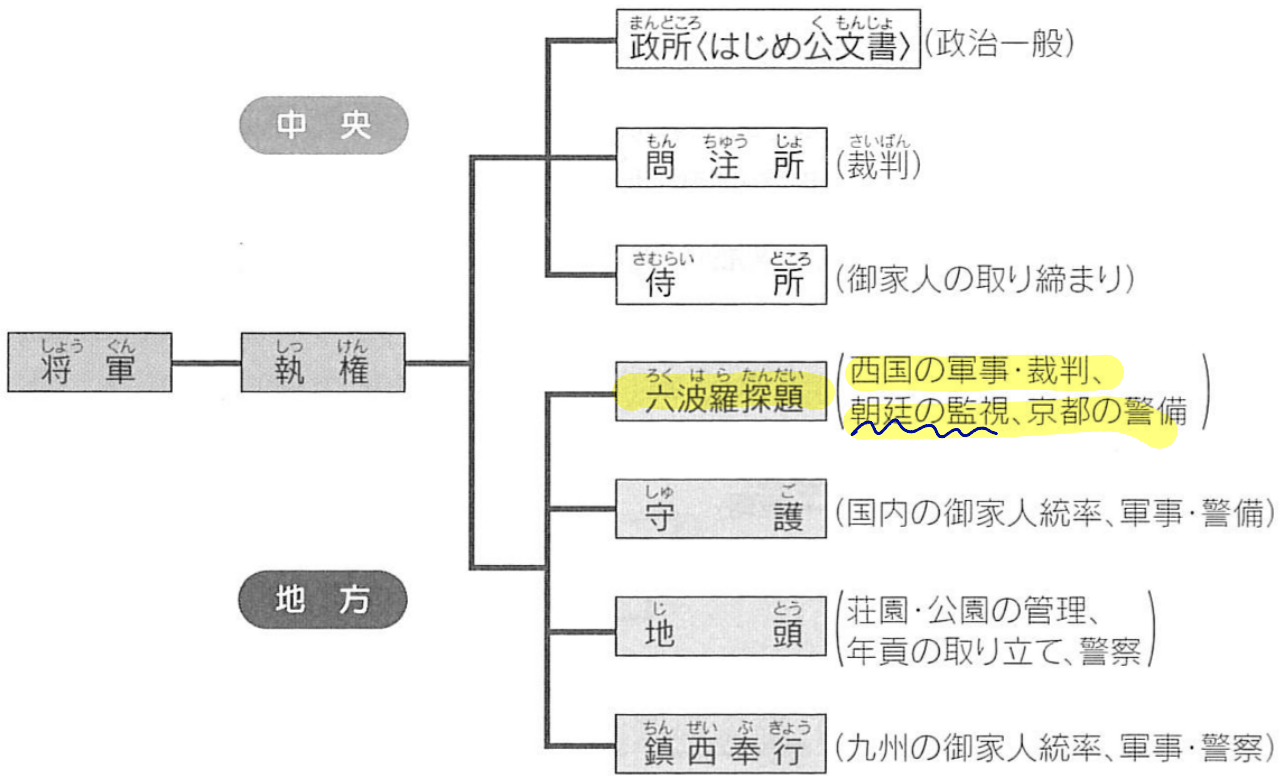
楽市・楽座

⇒ 市や座の廃止

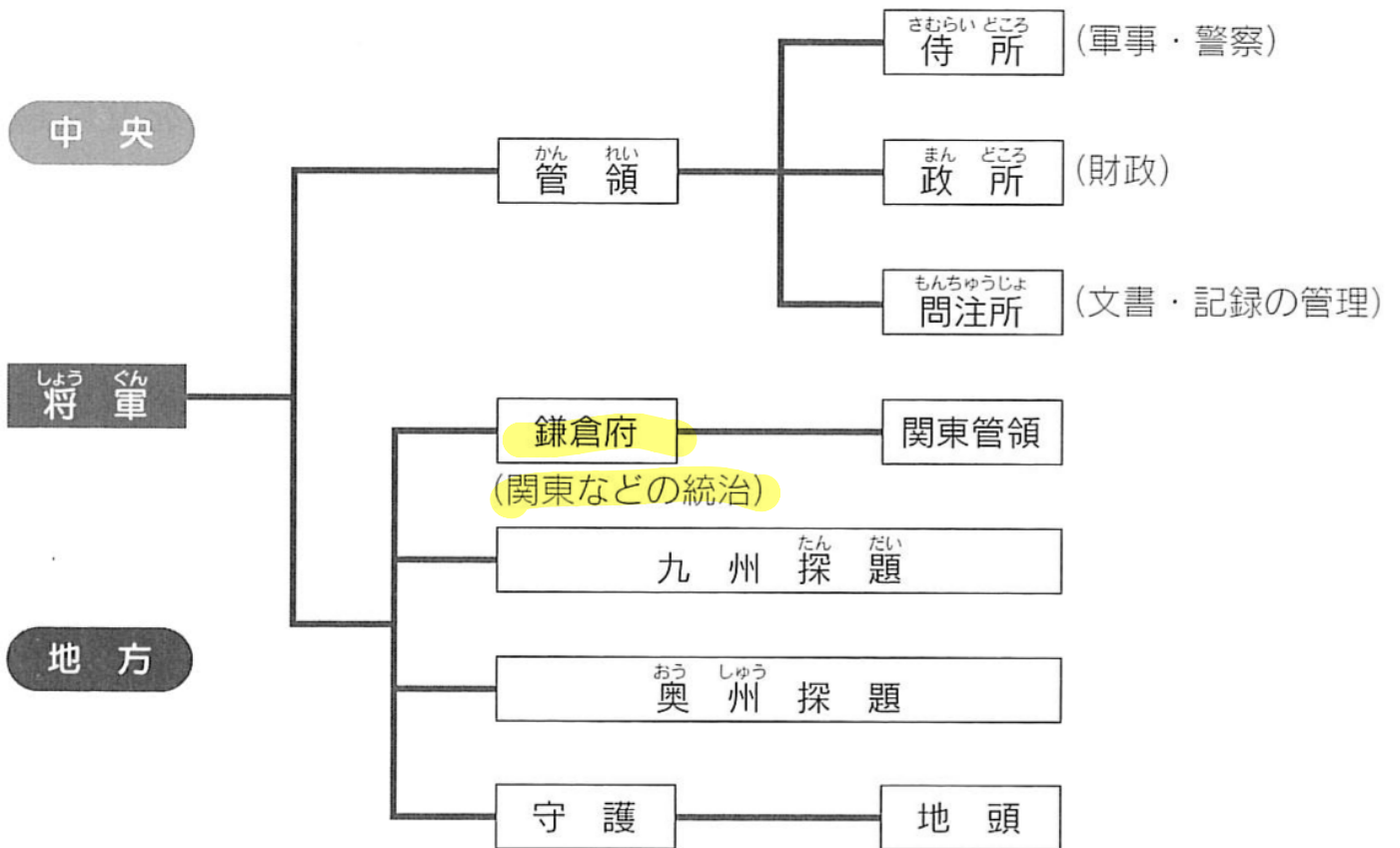


↓
人や物資が集まるようになり、商人の利益が大きくなる。結果として税収が増える。





[鎌倉幕府のしくみ]



[室町幕府のしくみ]

仏教の歴史を整理！

●奈良時代

国を平和におさめるための「国家仏教」。鑑真がんじんが唐招提寺とうしょうだいじを建立こんりゅう。

●平安時代

初期（平安新仏教の登場）

最澄さいちょう・空海くうかいが祈禱きとうを通じ、貴族たちから支持を受ける

最澄 天台宗（比叡山延暦寺ひえいざんえんりゃくじ）

空海 真言宗（高野山金剛峯寺こうやさんこんごうぶじ）

中期以降（末法思想まっぽう）

来世に極楽浄土へ行けるように阿弥陀仏あみだぶつを信じる、浄土教が貴族きそくに広がる

●鎌倉時代（鎌倉新仏教の登場）

一遍以外は天台宗出身。

★念仏（念仏をととなえ、阿弥陀仏を信仰）

法然 浄土宗 念仏「南無阿弥陀仏」をととなえれば極楽浄土に行ける

親鸞 浄土真宗 法然の教えをさらに進める

一遍 時宗 踊り念仏が民衆に受けて広がる

★禅宗（座禅で悟りを開く）

栄西 臨済宗 座禅によって悟りを開く

道元 曹洞宗 ただひたすら座禅をする

★題目（題目をととなえることを重視）

日蓮 日蓮宗（法華宗） 題目をととなえ、ほかの宗派を批判

摂政・関白 ⇒ 天皇を補佐

執権・管領 ⇒ 将軍を補佐

摂政と関白の違いについて説明したいと思います。

摂政

まず摂政についてです。

摂政は幼い天皇に代わって政務を執り行うとともに、当時において天皇の主要な大権だった官奏を覽すること、除目・叙位を行うことを執り行っていました。

女性

すなわち天皇に変わって政治を全面的に取り仕切っていたのが摂政です。天皇が幼かったり病弱であったといった理由で設けられていた例が多いようです。歴史上、初めて摂政になったのは聖徳太子と言われていますが、これには諸説あり定かではないようです。

関白

続いて関白です。摂政とは違い、関白の場合は最終的な決裁者はあくまでも天皇です。天皇と関白が協議などを通じて合意を図りながら政務を進めることが基本となっていました。天皇成人後のアドバイザー的なポジションであったと理解していいでしょう。ちなみに歴史上初めて関白となったのは、藤原基経であると言われています。

この摂政、関白の役職を独占したのが、平安時代の藤原氏です。特に藤原道長、藤原頼通親子の時に栄華を極め、道長は以下のような歌を残しています。

「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば」

(この世は自分のためにあるようなものだ。満月が欠けることがないのと同じように、私の思うようにならないことはない。)

執権（しっけん）、管領（かんれい）は、将軍を補佐する重要な役職です。

■執権（しっけん）

[時代] 鎌倉時代

[代表的な人物] 北条義時、北条泰時、北条時宗

[ポイント] 執権の地位は北条氏が代々独占。源頼朝の死後は政治の実権を握った

■管領（かんれい）

[時代] 室町時代

[代表的な人物] 細川氏、斯波（しば）氏、畠山（はたけやま）氏

[ポイント] 有力な守護大名（細川氏、斯波氏、畠山氏が有力三家）が交代で務めた

どちらも将軍の補佐という重要な役職ですが、執権が政治の実権を握っていたのに対し、管領はそれほど強い立場ではなく、あくまで将軍の補佐、全国の守護大名の統括という立場でした。